

旭公民館だより

発行 令和6年6月
旭公民館
館長 伊吹 公雄
電話 45-5903
FAX 45-5903

第拾貳回 旭寄席

今回も大いに笑っていた
できました



旭公民館恒例のプロのはなし家による落語演芸会を5月26日開催しました。約250名の観客は笑いの渦に巻き込まれました。

旭寄席実行委員会(会長=佐藤幸男)主催による旭寄席は、今回で12回目を迎え、前売り券もほぼ完売の状況で、開演時間の一時間以上前から皆さん続々と集まり、その表情はどなたも笑顔一杯、今日も大いに楽しんで帰るぞ、という意気込みが伝わってくるようでした。



笑
尊
藤

まず一番手は、旭寄席常連の笑福亭恭瓶さんの古典落語「転失気(てんしき)」のはじまりはじまり。

知ったかぶりの和尚さんが医者から言われた「てんしき」という言葉をお寺の小僧さんを使って調べようとするが、逆に小僧さんにだまされるというお話。ちなみに「てんしき」とはおならのこと。

観客は恭瓶さんの軽妙な話に笑いと共に引き込まれていました。



桂
春
輔

続いての登場桂春之輔(二代目)さんは、師匠(四代目桂春団治)の前名である春之輔を昨年5月に吉之輔改め襲名されました。

今回の話は創作落語「ハンカチ」。結婚生活25年の夫婦の人情味あふれるお話。夫がうそをつくときのくせ、あごをさわる仕草が、なんともおかしく笑いを誘っていました。

なお、桂春団治師匠はなかなか弟子を取らず、春之輔さんが一番

弟子。入門はもう三十年近く前、落語家になるためには誰かに弟子入りをと思い、一番やさしそだった桂春団治師匠にしよう。師匠からすると当時、弟子を取らないのは卑怯やと言われていたそうで、これは渡りに船やということで学校にもいかずフラフラしているこの男にとってプラスになると思い弟子にしたとのこと。春之輔さんが師匠と初めて会えたのは、なんと約束の時間から6時間以上後だったそうです。夢をかなえるには辛抱・忍耐も必要ですね。



桂
坊
枝

最後はベテランの桂坊枝さんの古典落語「がまの油」。

こちらの見どころは何と言っても、がまの油売り口上(こうじょう)の場面。酒を飲みすぎて呂律(るれつ)が回らなくなったがまの油売りが、必死に口上を述べようとする様子をまさに酔っぱらっているかのように演じる坊枝さんを見て、会場は大いに盛り上がっていました。次回も乞うご期待。



ごみの分別方法が 変わりました



広谷町生き生きサロンで市職員



いきいきサロンで分別方法を説明する環境整備課職員

ごみの分別の変更についての説明が、広谷町社会福祉協議会(会長=内海等)主催の広谷町いきいきサロンにおいて、府中市環境整備課の職員(池田英将主任・稲田勝治主任)からありました。

広谷町いきいきサロンは、5月24日(金)広谷町コミュニティセンターで行われ、役員含めて約40名の参加がありました。

主な内容は次のとおりです。

今年4月からごみの分別方法が変更になり、主には今まで埋立ごみに分類していた固いプラスチック製品・ゴム製品・革製品が、可燃ごみに変更となった。

容器包装プラスチックごみの回収が月2回から週1回に増えた。

また、ボタン電池や小型充電式電池が新たに資源ごみとして回収できるようになった。

ごみを出すときのポイント

***汚れたプラスチックごみは可燃ごみ**

軽く水ですすいで落ちない汚れが付いたもの(ケチャップ容器など)は可燃ごみでもOK。

***使い捨てライター(使い切ることは別袋に入れて埋立ごみ**

***スプレー缶(使い切ることはビン缶と一緒に資源ごみ(指定ごみ袋に入れる)**

穴あけは不要。

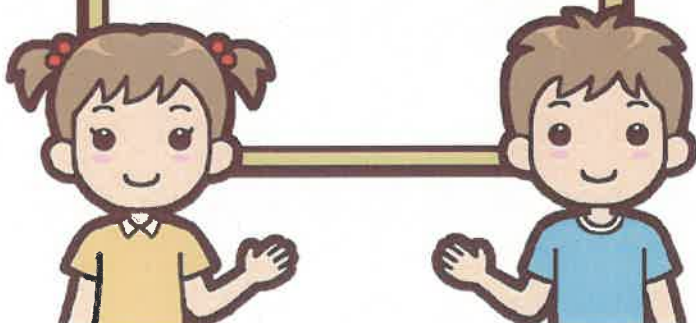
***ビデオテープとカセットテープは今までどおり埋立ごみ**

可燃ごみでは中のテープが絡まり不具合を引き起こすため。

***ペットボトルはキャップ・ラベル(容器包装プラスチックごみ)をはがしてペットボトル**



ご協力をお願いします。



旭小1年生絵画展示

題材「にこにこおひさま」

6/4(火)~7/4(木)

旭公民館

1階展示スペース

